

第2次古賀市環境基本計画中間見直し
「エネルギー・かんきょう問題について考えてみよう」
集計及び分析について

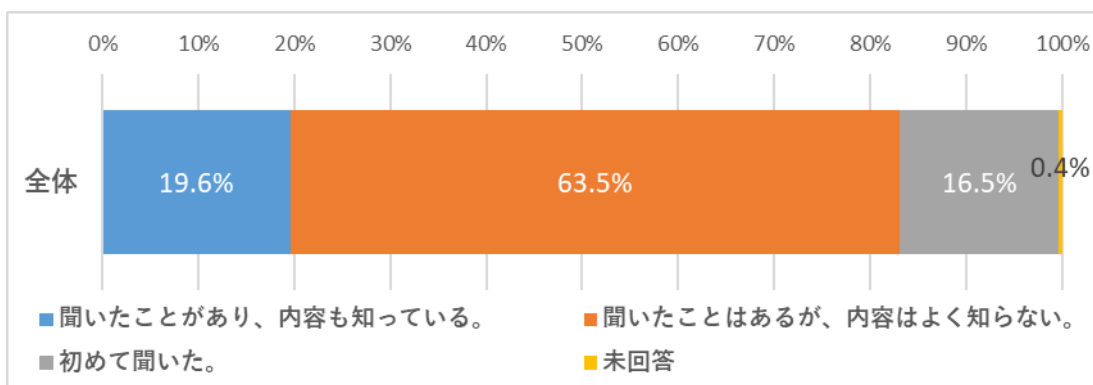
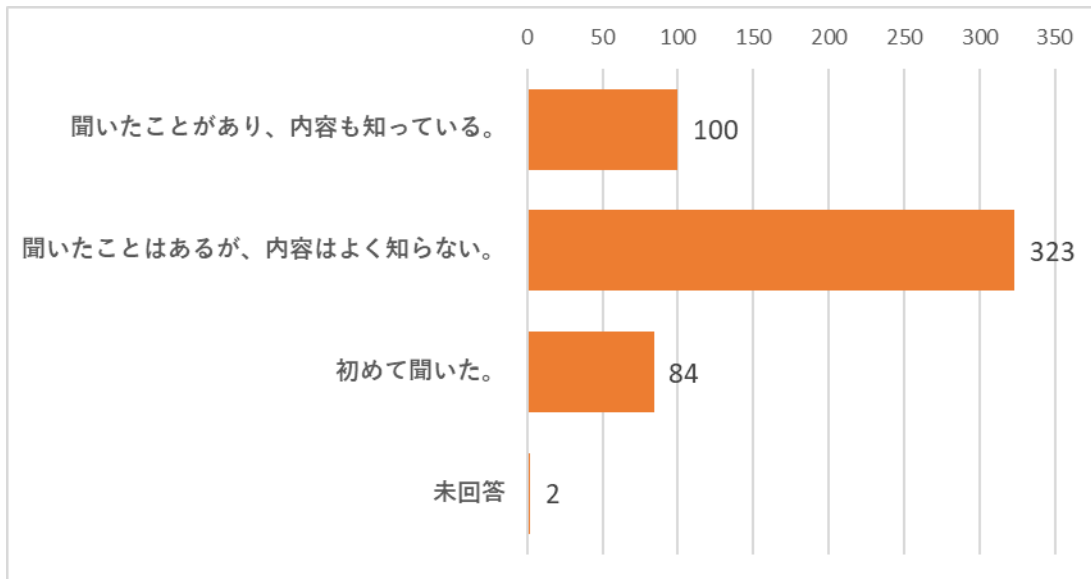
(1) 調査の実施状況

若年者向けアンケート調査は、以下の要領で実施した。

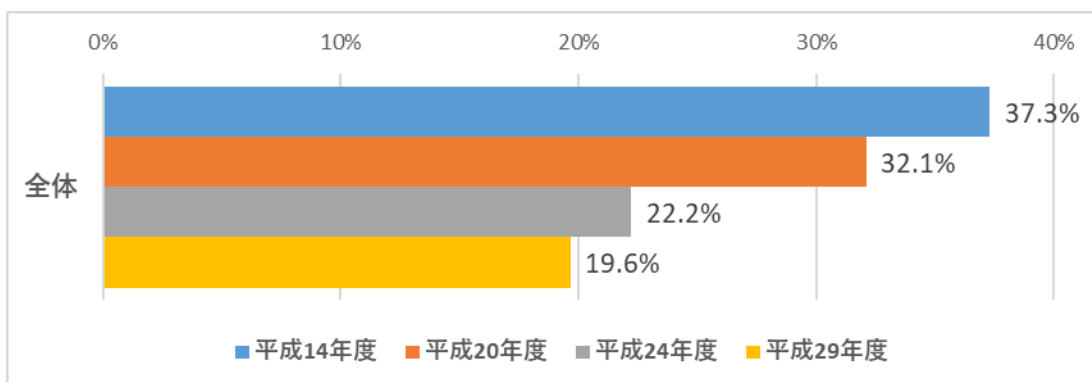
調査期間	平成 29 年 10 月 25 日送付 平成 29 年 12 月 28 日回収〆切
調査方法	各小学校校長を通じ、5 年生担任教諭に配布・回収を依頼
調査対象	市内小学校（全 8 校） 第 5 学年児童 531 人
回収数	509 サンプル
有効回収数	509 サンプル
有効回収率	95.8%

A. 次の①～⑥の言葉について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

① あなたは「省エネルギー」という言葉を知っていますか？



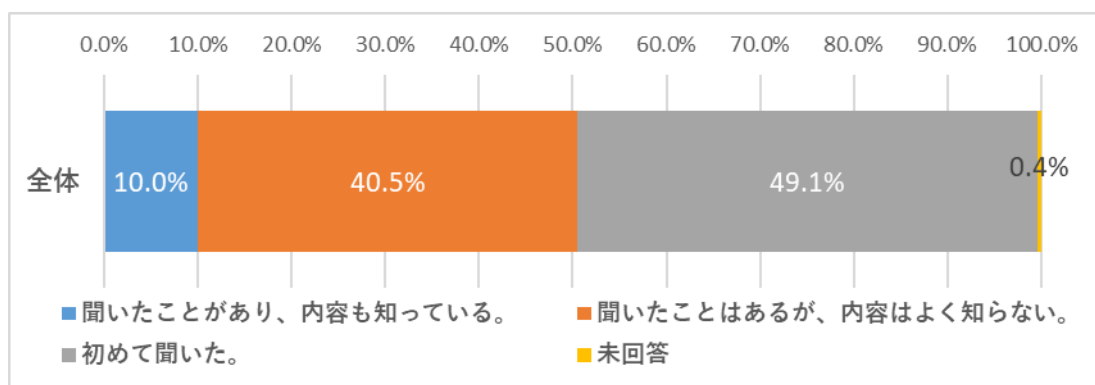
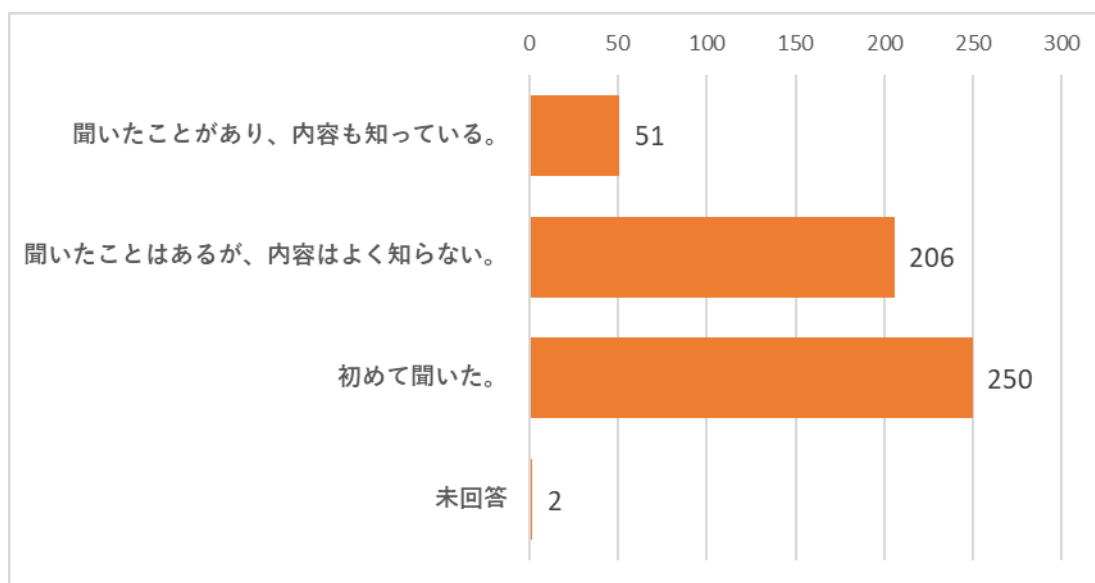
【「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した児童の割合】



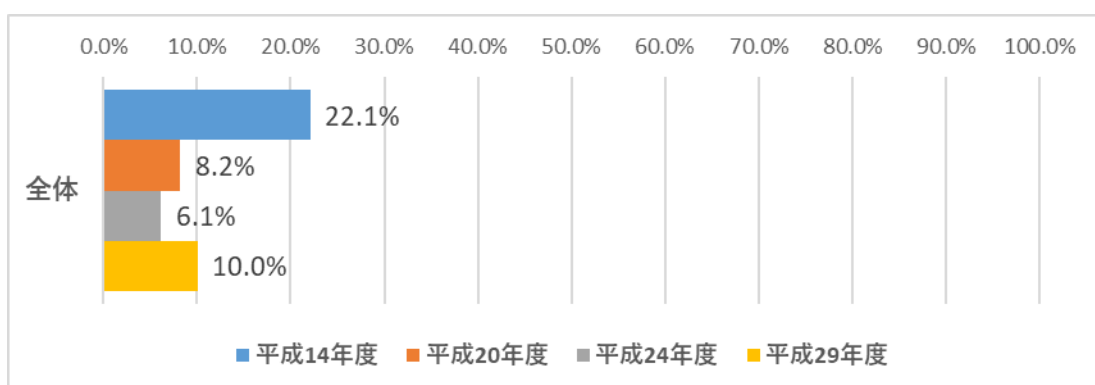
考察)

おおむね全ての学校で、言葉については知っている児童がかなり多かったが、内容まで知っているとなると2割を切る学校がほとんどである。また、各校では年度によって上下が見られるものの、全体では調査年ごとに認知度が減少している傾向にある。

② あなたは「化石燃料」という言葉を知っていますか？



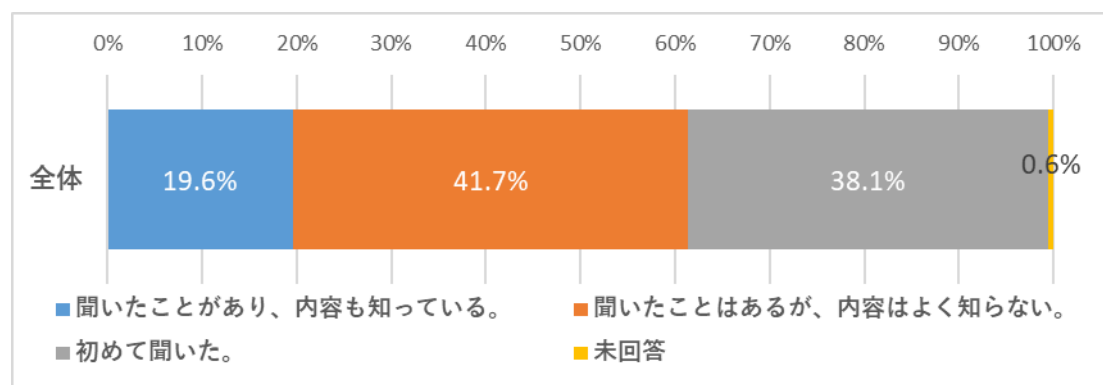
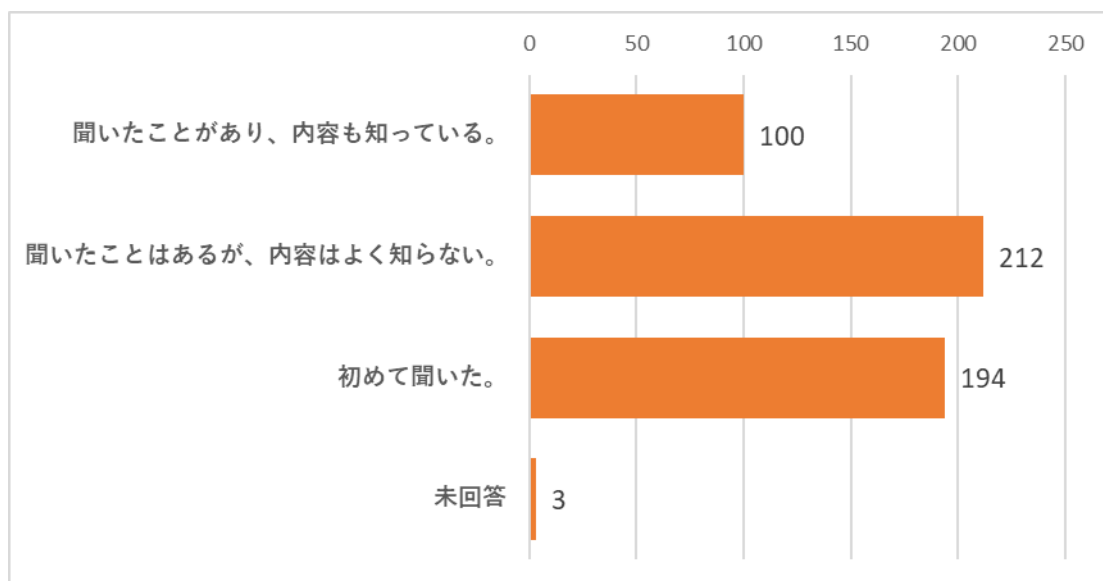
【「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した児童の割合】



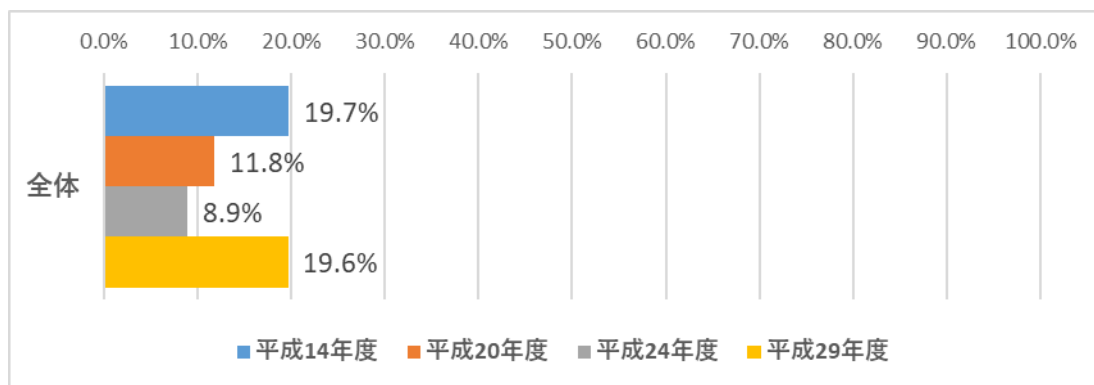
考察)

全体的に認知度は高くなく、約半数が「初めて聞いた」と回答しており、内容も知っている児童になると1割を切る学校も多い。前回調査までは、徐々に減少していたが、今回調査では8校中6校が前回より増えたこともあり、増加に転じている。

③ あなたは「温室効果ガス」という言葉を知っていますか？



【「聞いたことがあります、内容も知っている」と回答した児童の割合】

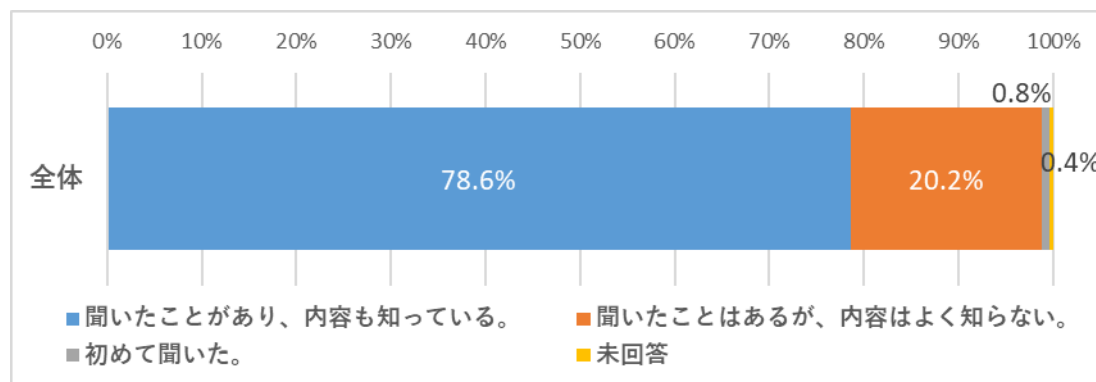
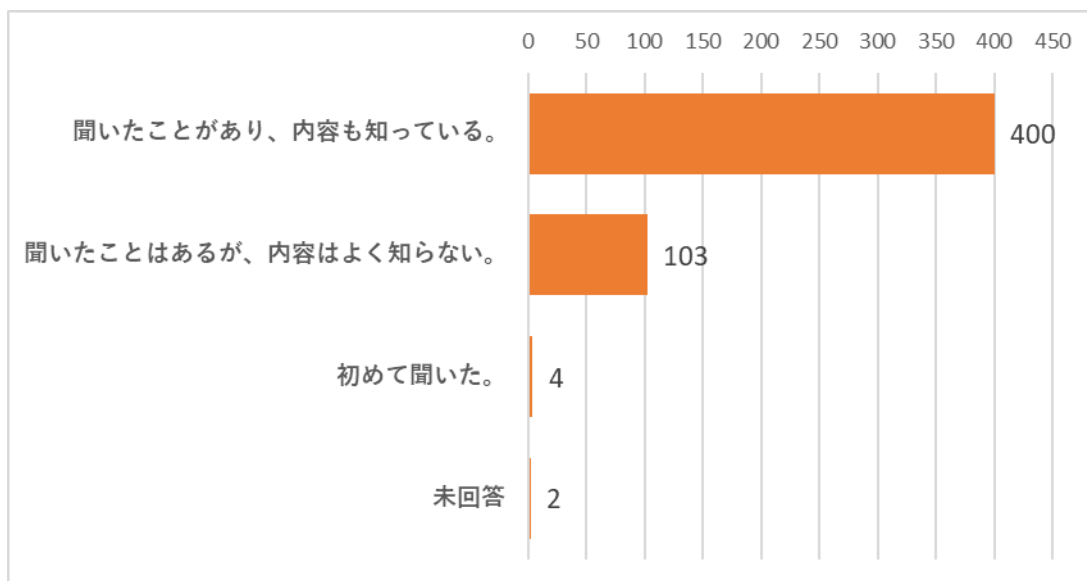


考察)

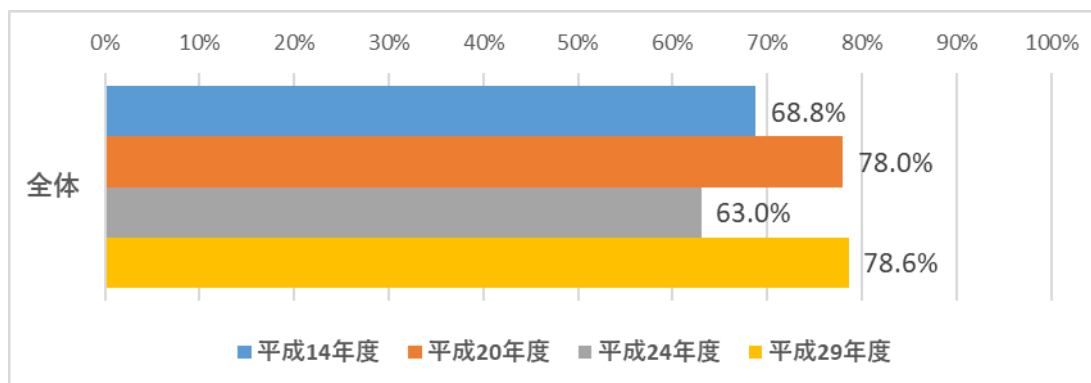
言葉を知っている児童はかなり多く、多い学校では8割近い児童が「聞いたことがあります、内容も知っている」と回答し、「初めて聞いた」と回答した児童は0であった。反面、少ない学校では「初めて聞いた」と回答した児童が6割近くおり、学校間でも差が明確に出た。

前回と比べると、認知度が上がった学校が多く、全体としては初回の調査である平成14年度に近い結果となった。

④ あなたは「地球温暖化」という言葉を知っていますか？



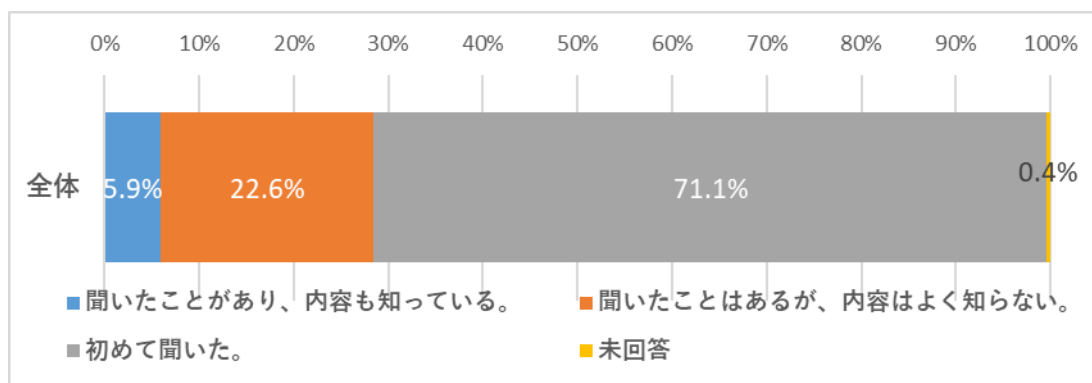
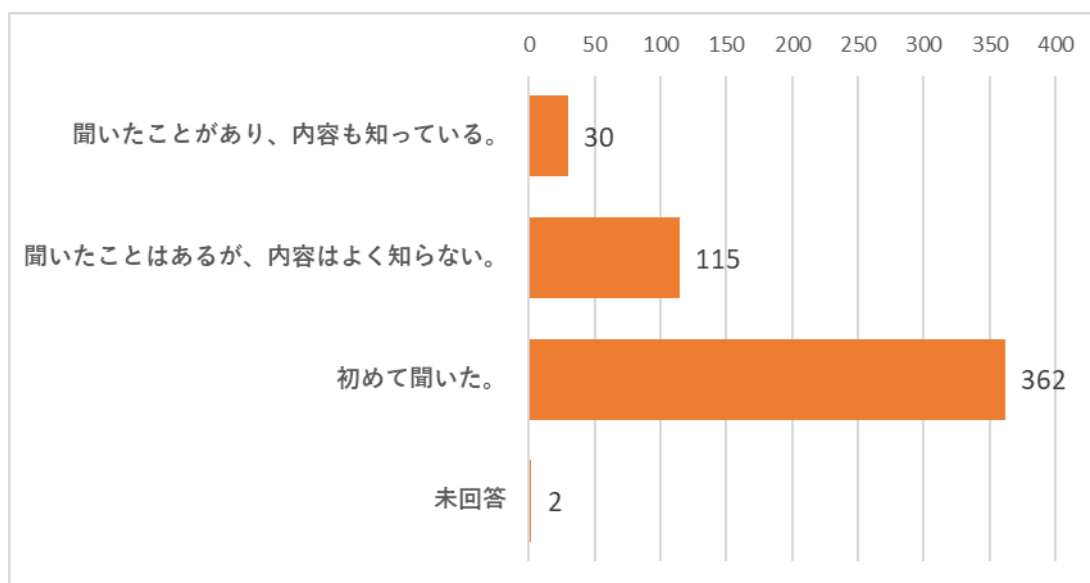
【「聞いたことがあります、内容も知っている」と回答した児童の割合】



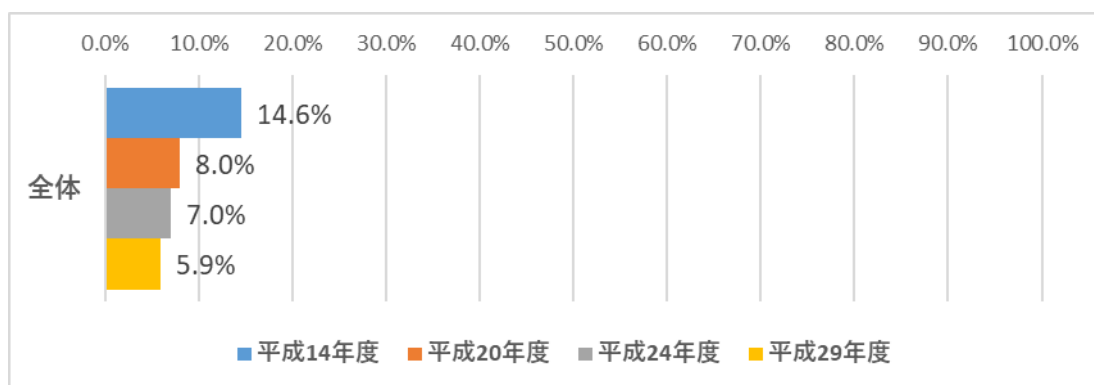
考察)

児童の認知度は非常に高く、「初めて聞いた」という児童が0の学校が4校あるなど、児童に身近な環境問題として認識されていることが伺える。前回調査と比較して全ての学校で認知度が上がっており、また全体で見ると4回の調査を通して最も高い数値となった。

⑤あなたは「ヒートアイランド」という言葉を知っていますか？



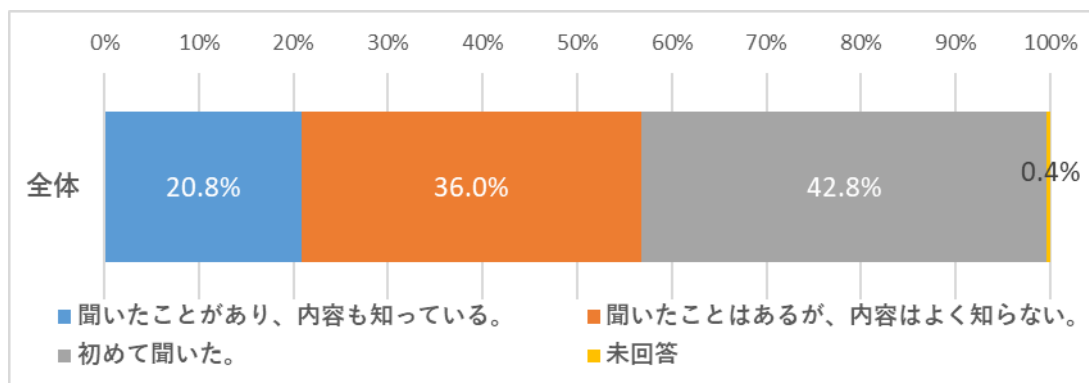
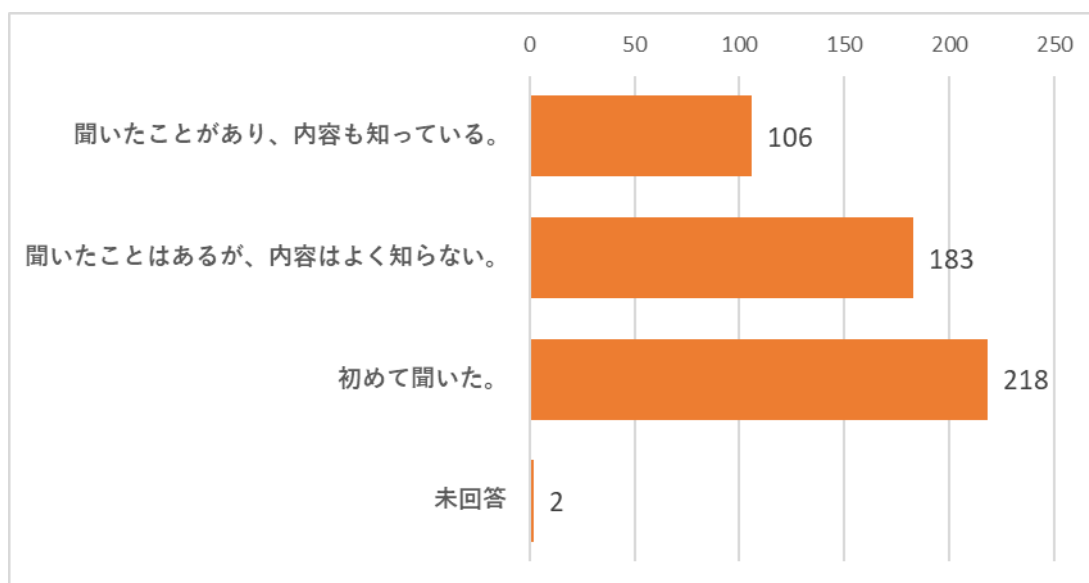
【「聞いたことがあります、内容も知っている」と回答した児童の割合】



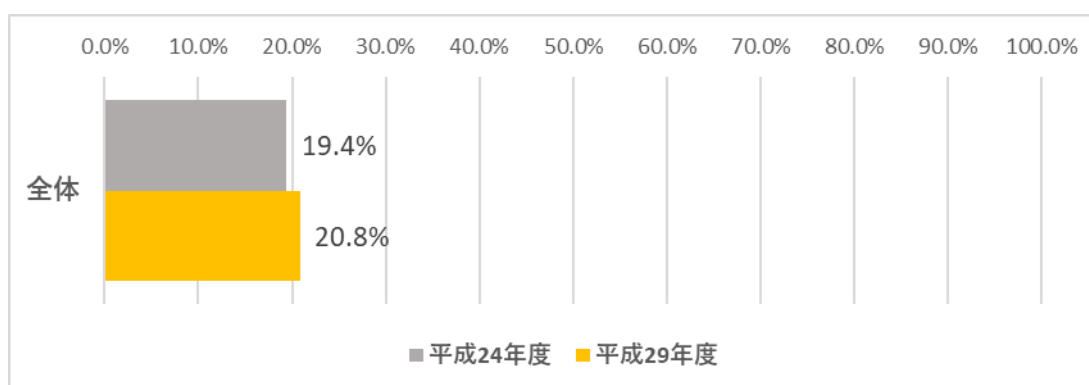
考察)

児童の認知度は非常に低く、「初めて聞いた」という児童がどの学校も6割を超えており、多いところでは8割近くの児童が用語自体を知らなかった。全体としても毎回認知度が落ちているものの、一部の小学校では前回0%だった認知度が6.8%になるなどの変化も見て取れた。

⑥ あなたは「再生可能エネルギー」という言葉を知っていますか？



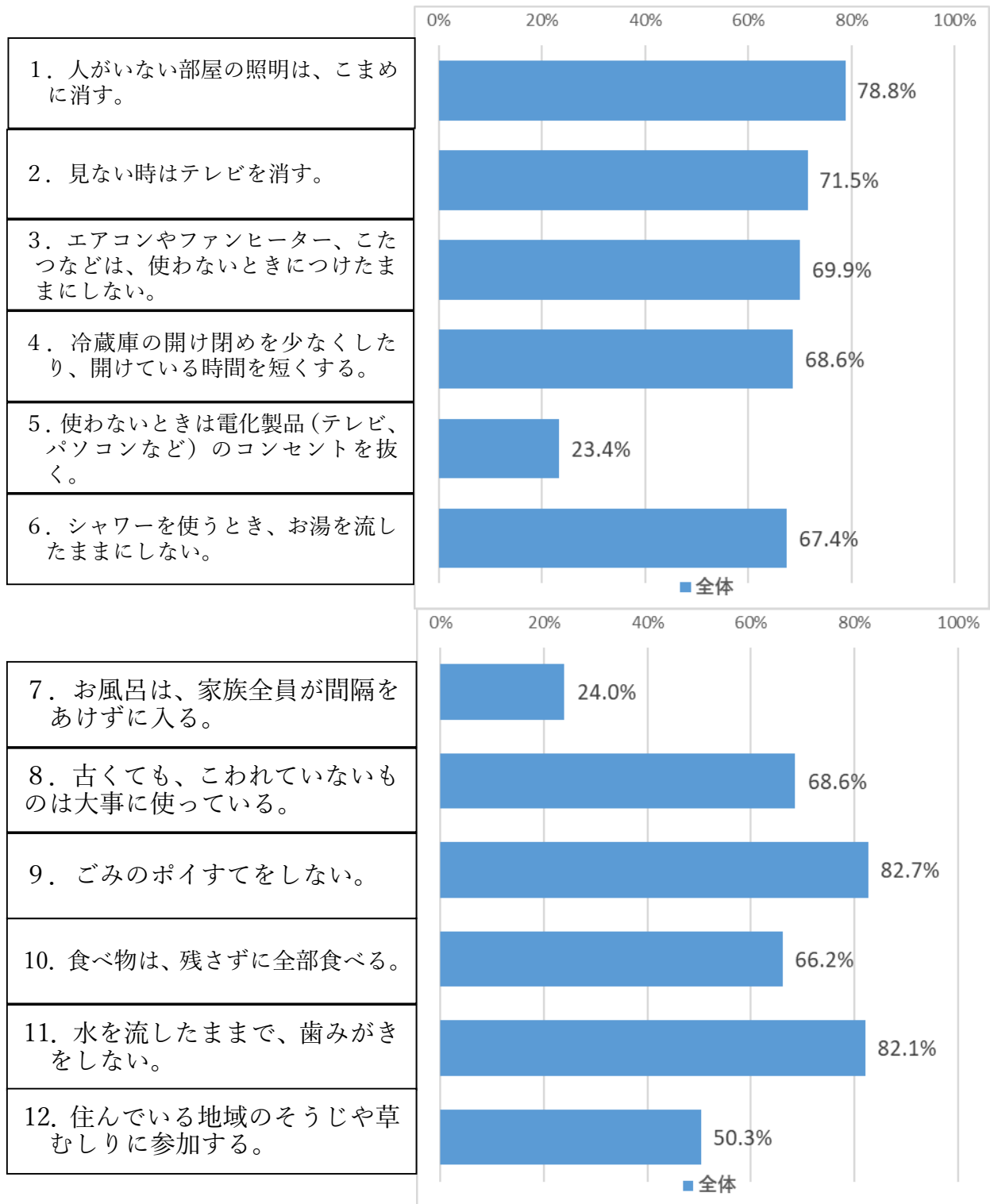
【「聞いたことがあります、内容も知っている」と回答した児童の割合】

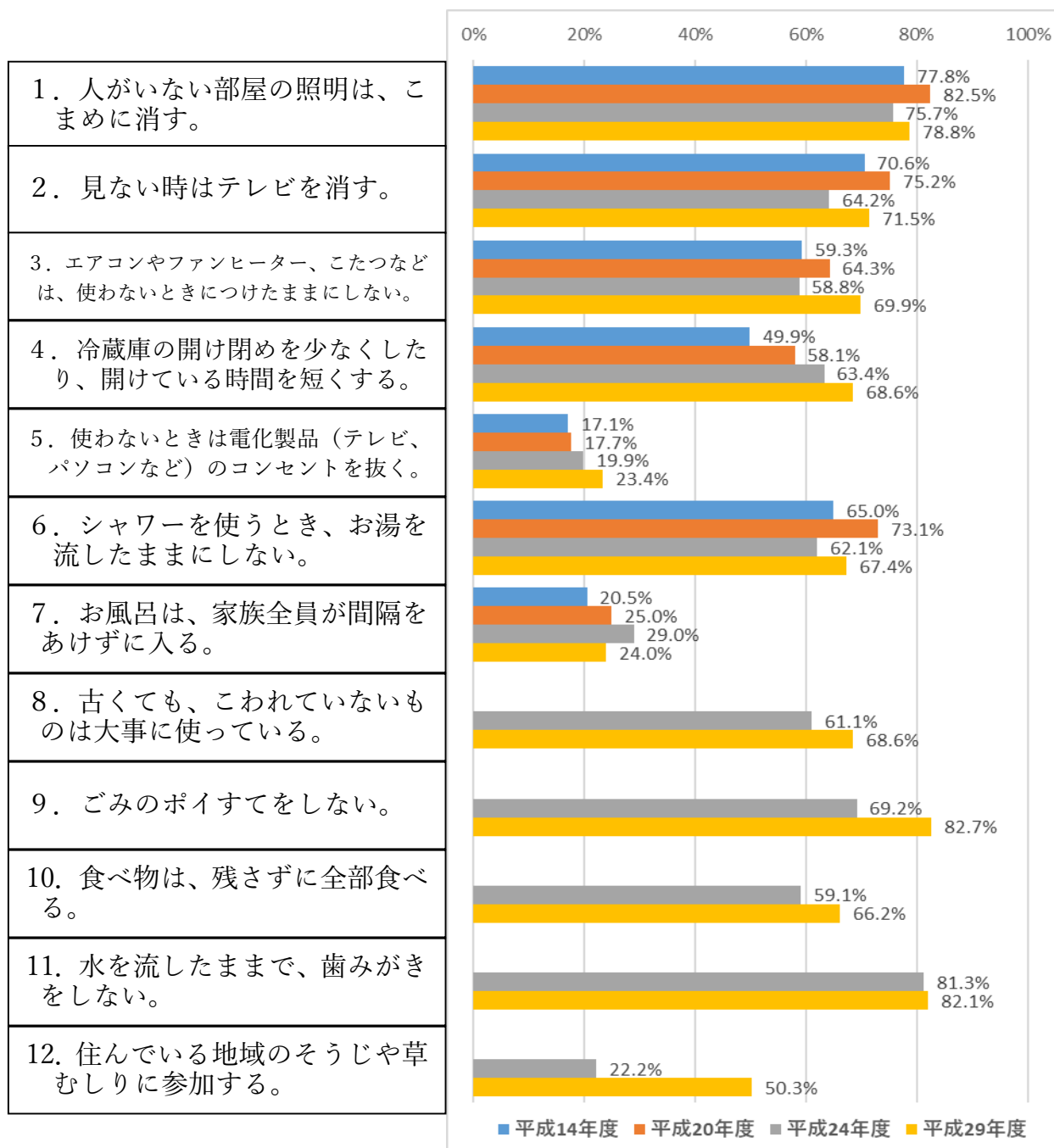


考察)

聞いたことのある児童と、聞いたことのない児童の割合がほぼ半々であり、まだ広くは浸透していないことが分かる。3校のみが前回調査と比べ伸びているが、伸び率が高いため全体としてもプラスとなっている。

B 次の 1～12 の中で、あなたがふだん心がけていることがあれば、全てに○をつけてください。

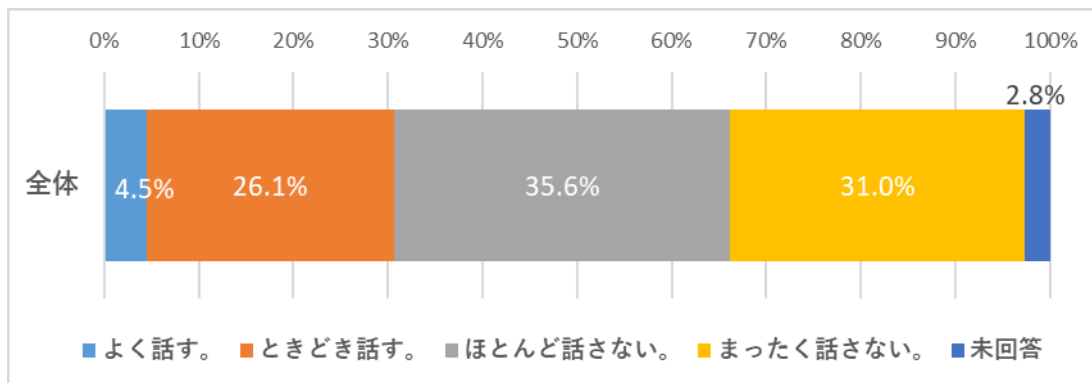




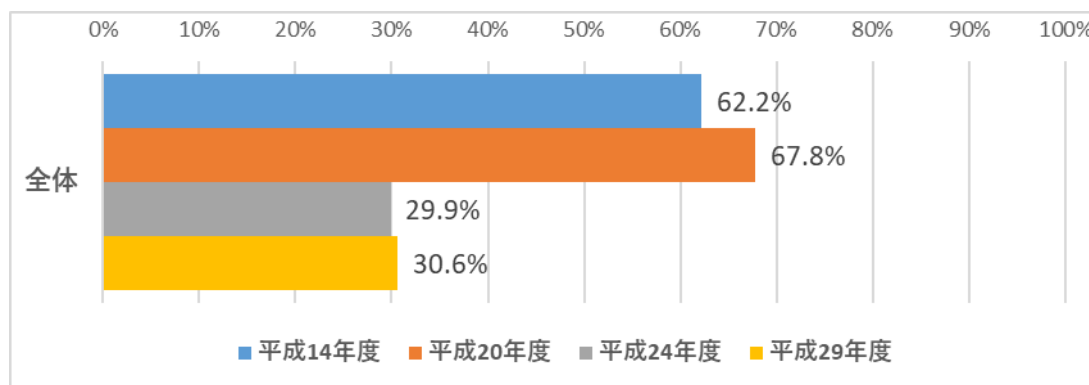
考察)

ほぼ全ての項目で、前回は上回る形となっており、「1. 人がいない部屋の照明は、こまめに消す。」「2. 見ない時はテレビを消す。」「7. お風呂は、家族全員が間隔をあけずに入る。」以外の項目は4回の調査を通じて最も高くなった。児童の環境に対する意識が高くなっており、実際に普段行う活動に生かされていることが、推察できる。

C あなたは、エネルギー・かんきょう問題について、家族の人と話をしますか。 あてはまるものに1つだけ○をつけてください。



※「よく話す」「ときどき話す」の合計の割合



考察)

学校によって差異はあるものの、「ほとんど話さない」「まったく話さない」と回答した児童が7割近くを占め、家庭で環境のことが話題に上がることがあまり多くない現状が分かる。また、「よく話す」「ときどき話す」の合計を暦年で見ると、平成14年・平成20年には60%以上の水準を維持していたものの、平成24年の調査で30%近くまで落ちたあと、今回の調査でも同水準に落ち込んだままとなっている。しかしながら2校を除き前回よりも数値が改善したこと、千鳥小学校・青柳小学校など、前回より大幅に増加した学校もあることなどから、学校などで行ってきた環境教育の成果が見られるのではないかと考えられる。